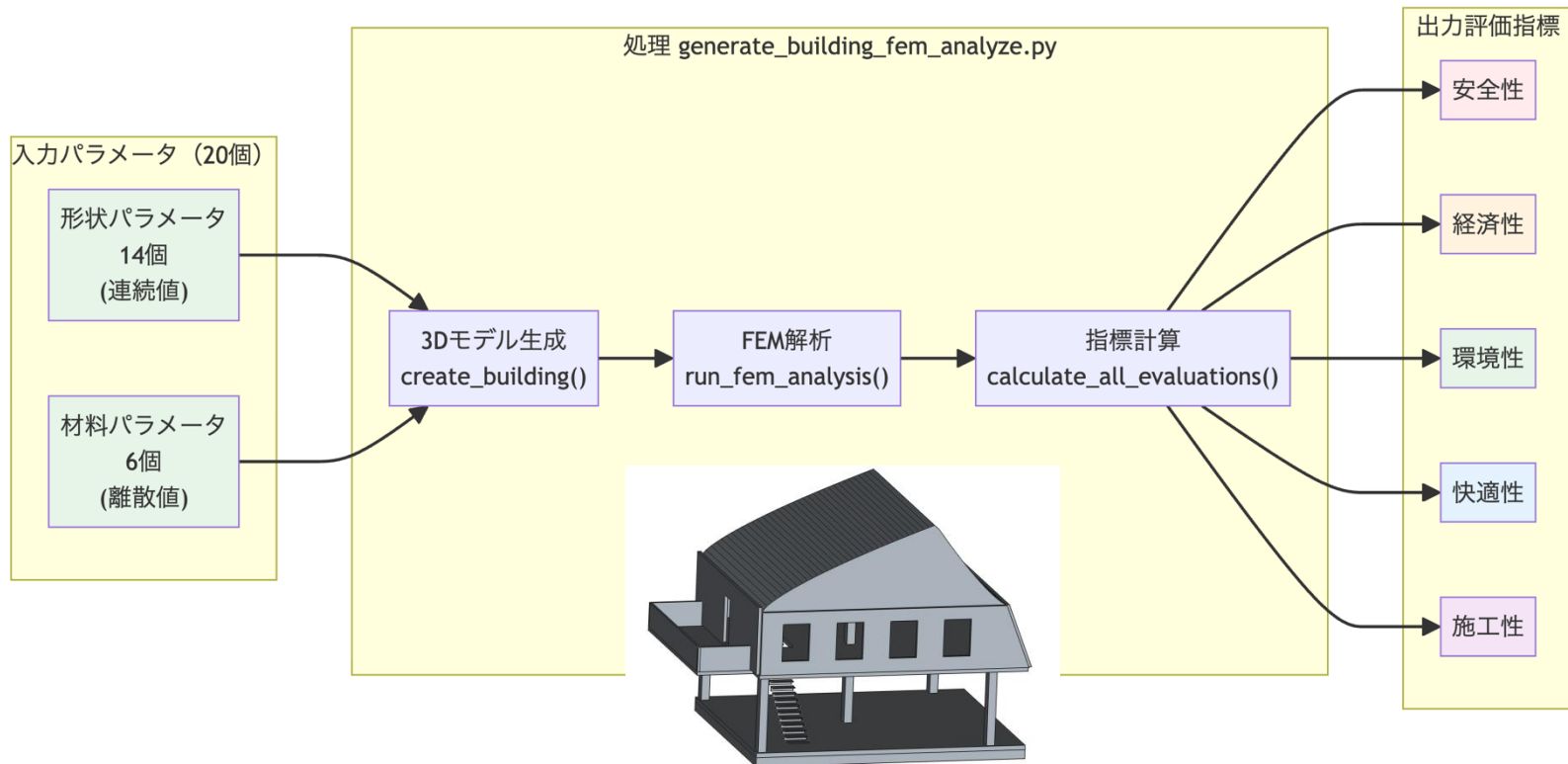


# 建築デザイン設計問題へのPSOの適用

- PSOによる建築設計の最適化
  - 何を最適化するか？
  - 何を目的として最適化を行うか？

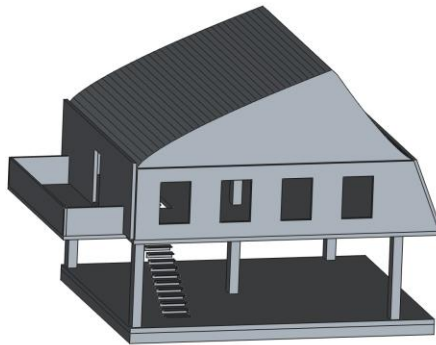


# ブラックボックス最適化としての定式化

設計変数

$x_1$
$x_2$
$x_3$
$\vdots$
$x_{20}$

入力



設計変数に従い  
建物を設計

FEM  
解析

出力

評価指標

$f_1$ : 安全率
$f_2$ : 建築コスト
$f_3$ : CO2排出量
$f_4$ : 快適性
$f_5$ : 施工性

$$\mathbf{y} = (f_1, \dots, f_5)$$

$$\mathbf{y} = f(\mathbf{x})$$

最適化の  
対象

$f$  はブラックボックス関数

建物のパラメータ (設計変数  $\mathbf{x}$ ) を  
入れると評価指標  $\mathbf{y}$  が返ってくる

ただし、内部の挙動  
(数式) はわからない

# 最適化問題を解く手順

## 1. 問題の定義:

- 最適化問題を明確に定義する(達成したい目的, 守るべき制約など)

## 2. 定式化:

- 問題を数学的に表現する. 設計変数を定義し, 目的関数・制約条件を設計変数の関数として表現する

## 3. 解法(solver)の選択:

- 定式化された問題に対して, 適切な解法(最適化手法)を選択する

## 4. 解の探索:

- 選択した解法を使って, 問題の解を求める

内部の数式を知らなくても,  
試行錯誤的に良い解を探す手法

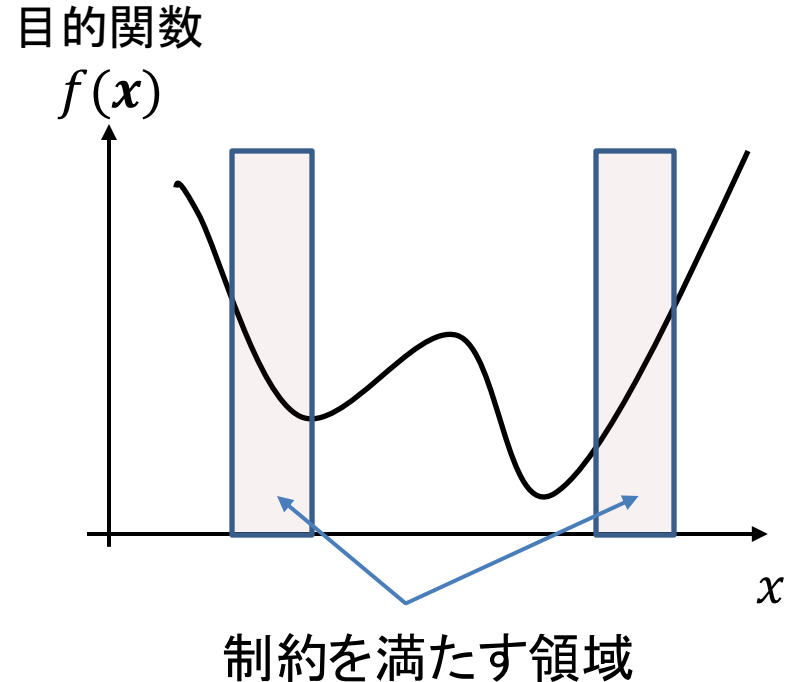
## 5. 解の検証:

- 得られた解が適切か(制約条件を満たしているか)を確認する

# 目的関数と制約条件

## 目的関数 (Objective Function)

- 最適化問題で**求めたい結果**を表す数式
- 値を変化させるものが変数
- 最小 or 最大にしたい関数値が目的関数
  - (例: 利益, コスト, 効率など)



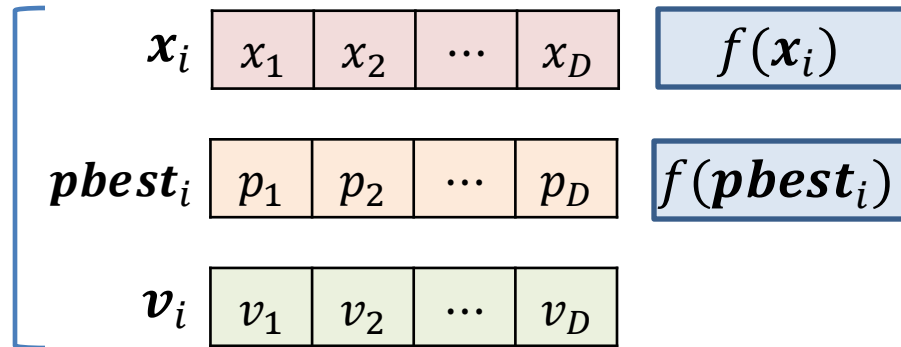
## 制約条件 (Constraints)

- 最適化問題の解が**満たすべき条件**を表す式
- 制約条件は、目的関数を最大化または最小化すると同時に満たす必要がある
- (実世界の問題ならば) 制約条件は、資源の制限, 法律的制限, 技術的制限など

# PSOの設計変数 $x$ と適応度関数 $f$

各粒子  $i$  の持つ情報 ( $i = 1, \dots, N$ ):

$N$  は粒子数  
 $D$  は問題の次元数



$D$  次元ベクトル

## 最小化問題

達成したい目的に応じた  
適応度関数を設定  
(制約条件も考慮)

最適化の対象

$$x = (x_1, x_2, \dots, x_{20}) \quad D = 20$$

20  
個の  
変数

適応度関数  $f$

適応度

設計変数  $x$  はすべて連続値とし、  
事前に決めた範囲内でランダムに生成  
(探索中もはみ出さないように修正)

# 設計変数 $x$ の扱い: 形状パラメータ

変数	変数名	意味	単位
$x_1$	Lx	X方向長さ	m
$x_2$	Ly	Y方向長さ	m
$x_3$	H1	1階高さ	m
$x_4$	H2	2階高さ	m
$x_5$	tf	床スラブ厚	mm
$x_6$	tr	屋根スラブ厚	mm
$x_7$	bc	柱幅	mm

変数	変数名	意味	単位
$x_8$	hc	柱奥行き	mm
$x_9$	tw_ext	外壁厚	mm
$x_{10}$	wall_tilt_angle	壁傾斜角度	度
$x_{11}$	window_ratio_2f	2階窓面積比	-
$x_{12}$	roof_morph	屋根形状係数	-
$x_{13}$	roof_shift	屋根ずれ係数	-
$x_{14}$	balcony_depth	バルコニー奥行き	m

- mm 単位の形状変数は評価直前に整数へ丸める(四捨五入)
- 各変数の定義域 (上限/下限) は pso\_config.py で指定する

```
14 # =====
15 # 設計変数の範囲定義
16 # =====
17 variable_ranges = {
18     "Lx": (8, 12), # 建物幅 [m]
19     "Ly": (6, 12), # 建物奥行 [m]
20     "H1": (2.6, 3.5), # 1階高さ [m]
21     "H2": (2.6, 3.2), # 2階高さ [m]
```

# 設計変数 $x$ の扱い: 材質パラメータ

変数番号	部材	材料
$x_{15}$	柱	0 or 1
$x_{16}$	1階床	0 or 1
$x_{17}$	2階床	0 or 1
$x_{18}$	屋根	0 or 1
$x_{19}$	壁	0 or 1
$x_{20}$	バルコニー	0 or 1

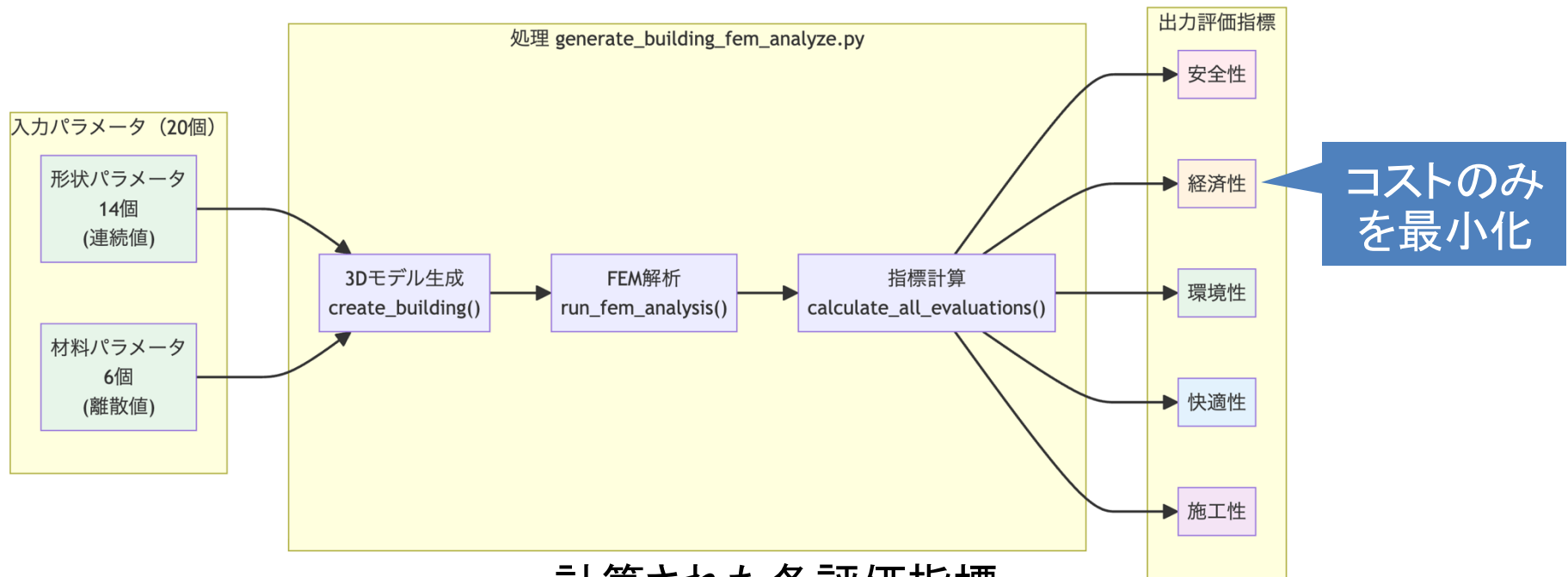
0=木材  
1=コンクリート

- 材質パラメータ  $x_{15} \sim x_{20}$  : 連続値  $[0, 1]$  として保持し, 評価時に

$$m_i = \begin{cases} 0 & (x_i < 0.5) \\ 1 & (x_i \geq 0.5) \end{cases} \quad (i = 15, \dots, 20)$$

と離散化してFEMに渡す (0=木材, 1=コンクリート).

# 適応度関数の意味(1/2)



pso\_config.py で  
指定する

計算された各評価指標

コスト

安全性

環境性

快適性

施工性

```
def calculate_fitness(cost, safety, co2, comfort, constructability):
```

```
# 基本適応度：コストのみ  
fitness = cost
```

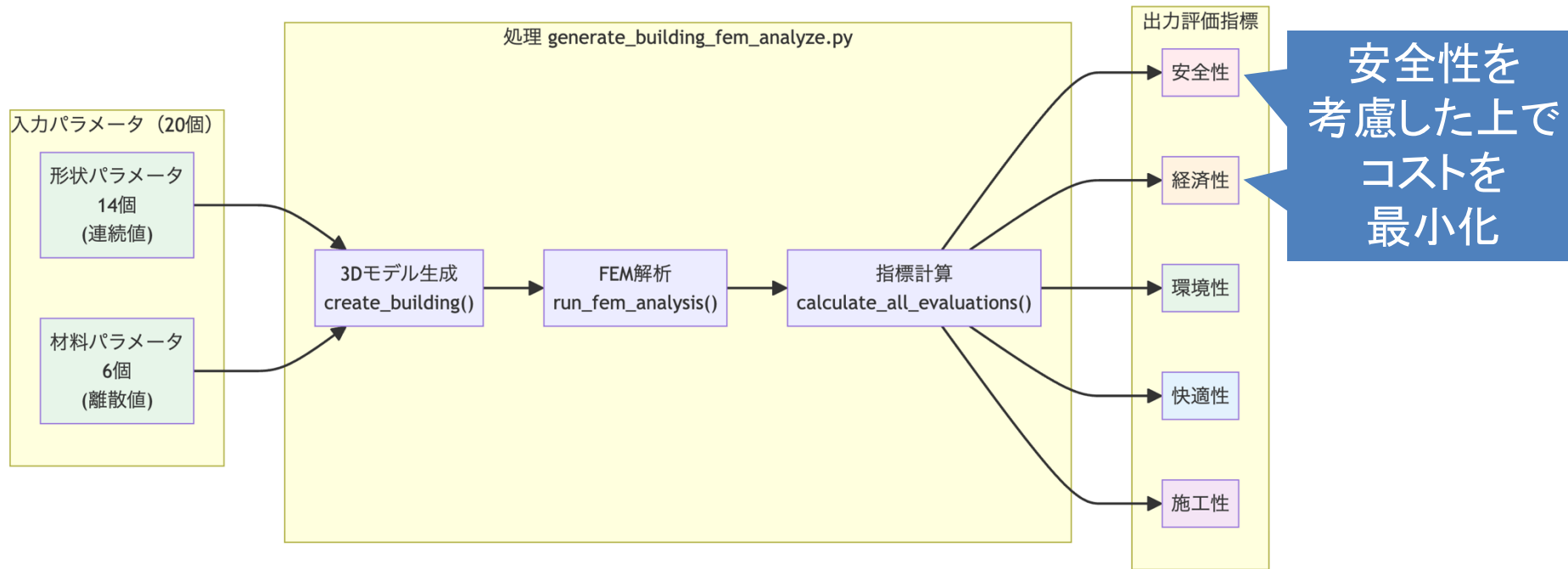
```
return fitness
```

コストが小さいほど良い設計  
⇒ コストがそのまま粒子の適応度(良さ)

他の評価指標は(計算したが)無視



# 適応度関数の意味(2/2)



```
def calculate_fitness(cost, safety, co2, comfort, constructability):
```

```
# 安全率の閾値  
SAFETY_THRESHOLD = 2.0
```

```
# 基本適応度：コストのみ  
fitness = cost
```

```
# 安全率ペナルティ  
if safety < SAFETY_THRESHOLD:  
    fitness += (SAFETY_THRESHOLD - safety) * 10000
```

```
return fitness
```

(コストが小さくても)  
安全率が2より小さいと  
ペナルティを加算

+= は「加算して代入」  
x += 3 は  
x = x + 3 と同じ意味

# ペナルティの加算

```
def calculate_fitness(cost, safety, co2, comfort, constructability):  
    # 安全率の閾値  
    SAFETY_THRESHOLD = 2.0  
  
    # 基本適応度：コストのみ  
    fitness = cost  
  
    # 安全率ペナルティ  
    if safety < SAFETY_THRESHOLD:  
        fitness += (SAFETY_THRESHOLD - safety) * 10000  
  
    return fitness
```

最低限確保すべき安全率を満たしていない場合は、その**不足分**に **10000** を掛けた値を fitness に加算（コストに上乗せ）する

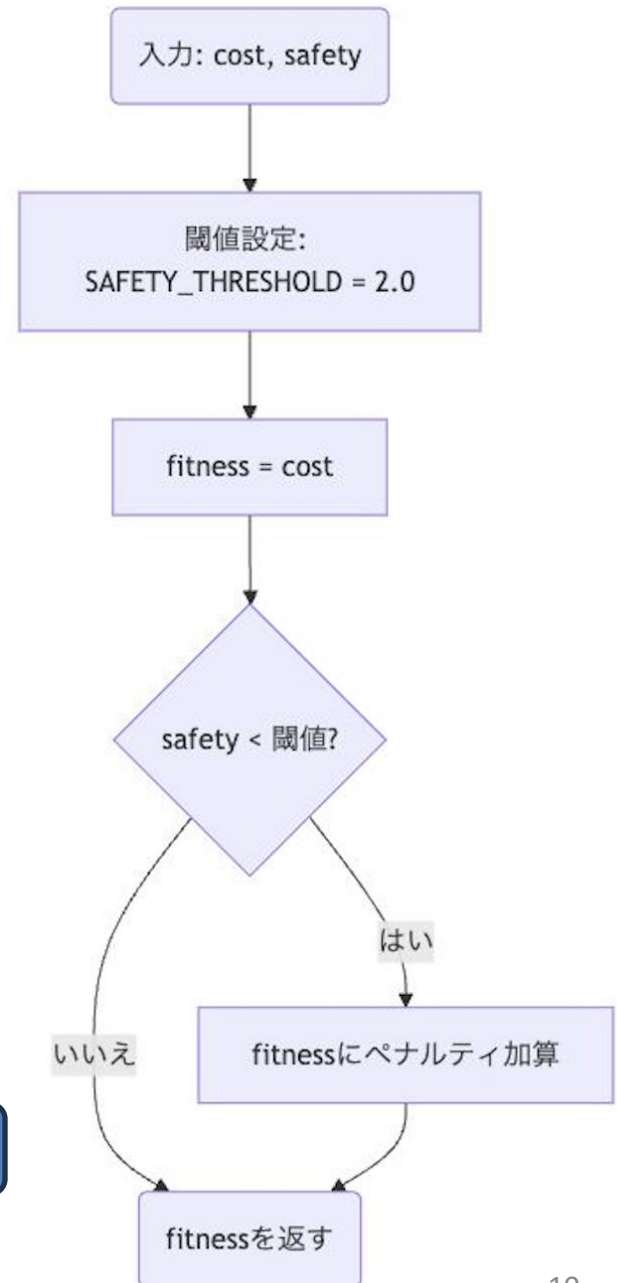
代入

$$\text{fitness} = \text{fitness} + \text{不足分} \times \text{重み}$$

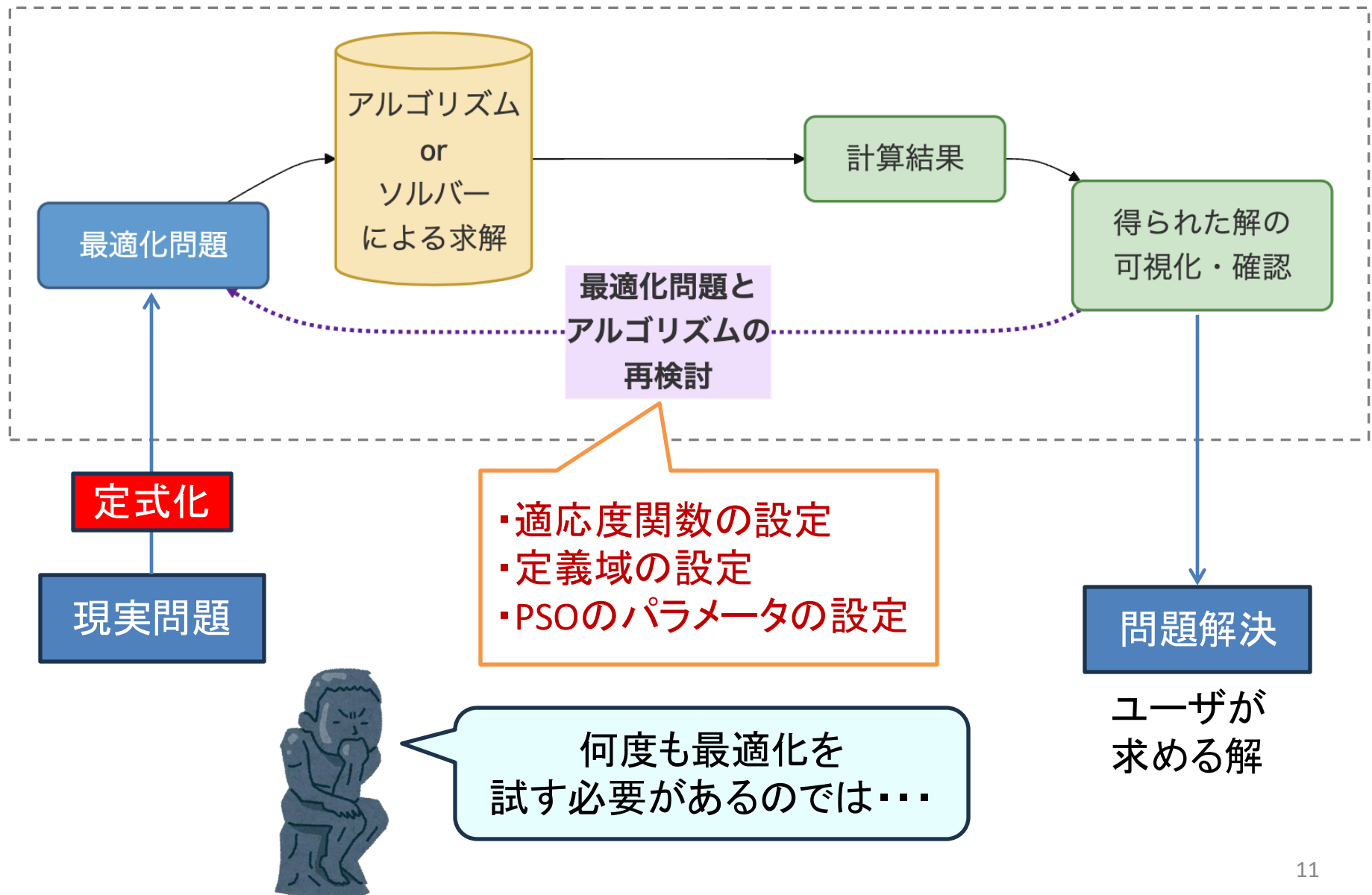
適応度:

「コスト」と「安全率」を1つの評価指標に合成

自由に設定可能

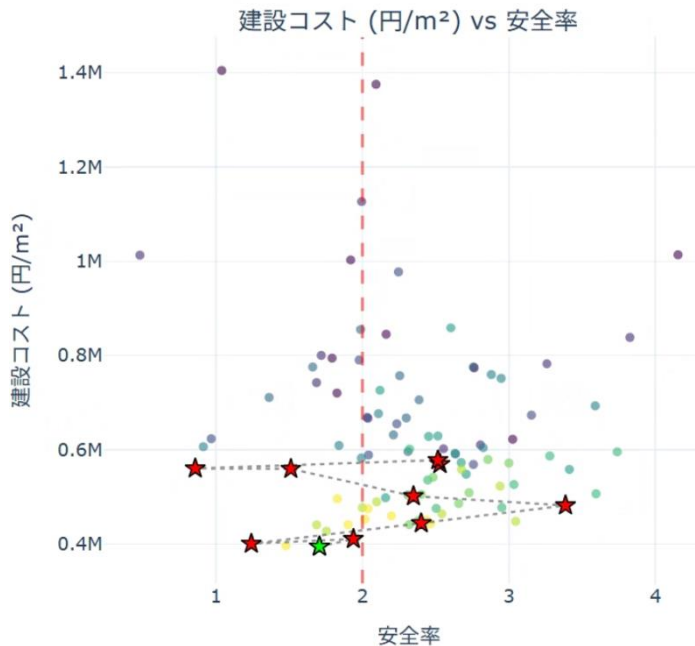
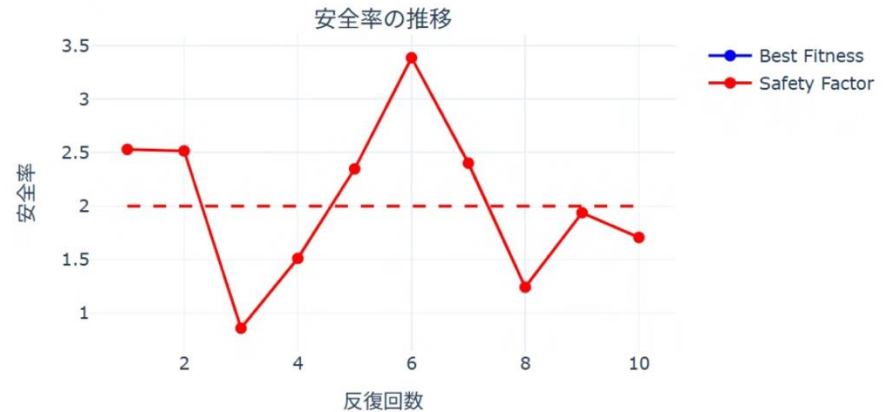
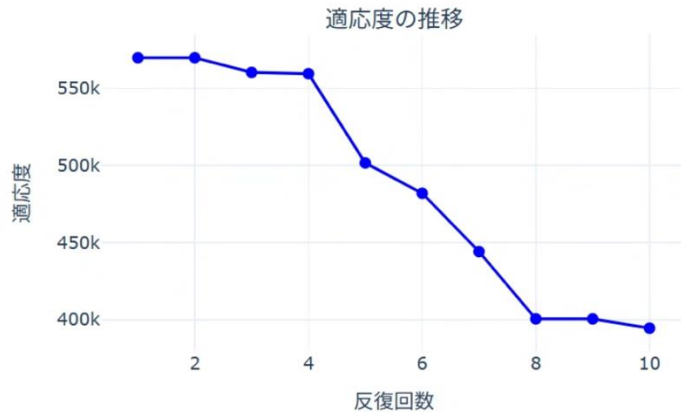


# 最適化の流れ



# PSOの実行例

## 各世代のgbestの適応度と安全率



## 適応度関数を

# 基本適応度：コストのみ  
fitness = cost

とした場合の結果

この設定だと  
コストは下がるけど、  
安全性が...

